

[第32回学術集会 共催シンポジウム]

## 日本家族看護学会と日本乳幼児医学・心理学会の共催シンポジウム 地域全体で子育て家庭を支える一父親を含めた家族支援

座長

今野 美紀 (札幌医科大学保健医療学部看護学科)  
岡光 基子 (宇部フロンティア大学看護学部看護学科)

話題提供者

根ヶ山光一 (早稲田大学)  
山下 洋 (九州大学病院子どものこころの診療部)  
矢郷 哲志 (東京科学大学大学院保健衛生学研究科)

指定討論者

浅野みどり (修文大学看護学部)

概要

社会の急激な変化により、子育て家庭は深刻な育児不安やストレスを抱え、子ども虐待の件数は増加の一途を辿っている。育児役割が母親に偏る状況が続く中、母親に対する育児支援は限界を迎えており、父親を含めた子育て家庭全体を支える具体的なアプローチの探求が重要である。また、医療専門職による支援だけでなく、地域全体で子育て家庭を支える仕組みづくりが求められる。育児を父親と母親だけの閉鎖的な空間で行うのではなく、近隣住民、幼稚園、保育園、学校、子育て支援センターなど、地域全体で子どもを育てること、そして、子ども、親、高齢者などの多世代が世代を超えて繋がり支え合うことが必要とされる。

そこで、日本家族看護学会と日本乳幼児医学・心理学会の2つの学会が、「地域全体で子育て家庭を支える一父親を含めた家族支援」というテーマで共催シンポジウムを企画した。話題提供者の根ヶ山氏からは心理学の立場から、霊長類学やアロケア（アロマザリングとアロペアレンティング）の心理社会的問題をご提示いただき、子育てのネットワークを地域で再構築していくための議論を深められるよう

なご発表をいただく。山下氏には、プレコンセプションから子育て期までの過程の中で周産期を理解する上で重要な概念として、「親になる過程」をバイオ・サイコ・ソーシャル・モデルで理解することと、ポスト・コロナと超少子化社会を背景に父親の「親になる過程」を支援する仕組みの必要性について精神医学の立場からお話しいただく。矢郷氏からは、幼児を養育している父親のメンタルヘルスの実態と支援の必要性、さらに、高齢者との世代間交流に関する調査結果を踏まえながら、世代を超えて地域全体で子どもを支える支援の重要性について看護学の立場からお話しいただく。指定討論者の浅野氏には、3名の話題提供を受けて、医学、心理学、看護学が協働して取り組むべき課題とその意義について看護への示唆が得られるよう私見・疑問を提示いただき議論を深めていきたい。

子どもとその家族のwell-beingを向上させるためには、こういった学際的な連携による支援プログラムの開発とその実装が必要である。各領域からの最新の知見や科学的根拠に基づき、今後ともその可能性をめぐって領域横断的に活発な議論が継続されることが期待される。